

平成30年度 新規事業等の概要

- がん検診受診率向上関係
- がん患者支援関係

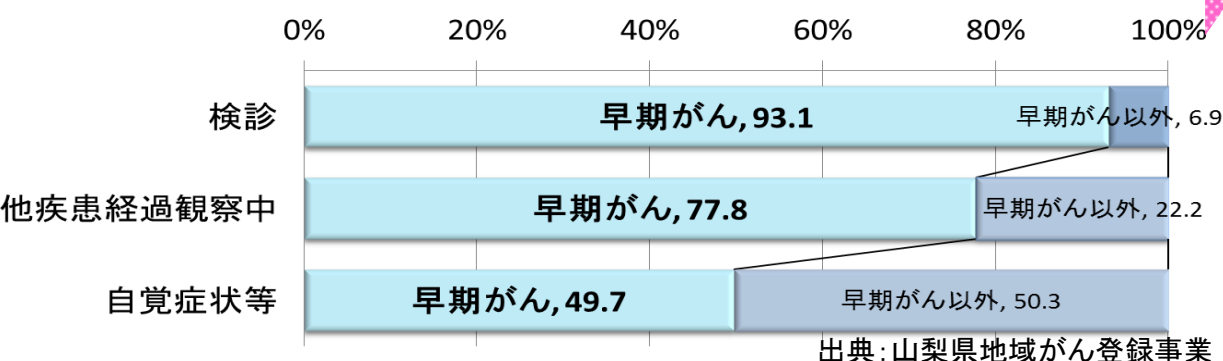
子宮頸がん検診受診率向上事業

4,472千円

子宮頸がん検診はがん検診の中で最も効果大

子宮頸がんは、がん検診で発見された場合、93.1%が早期がんである。一方、自覚症状が出てから発見された場合、早期がんであった割合は49.7%に減少する。このことから、子宮頸がんを早期に発見するためには、がん検診が有効である。

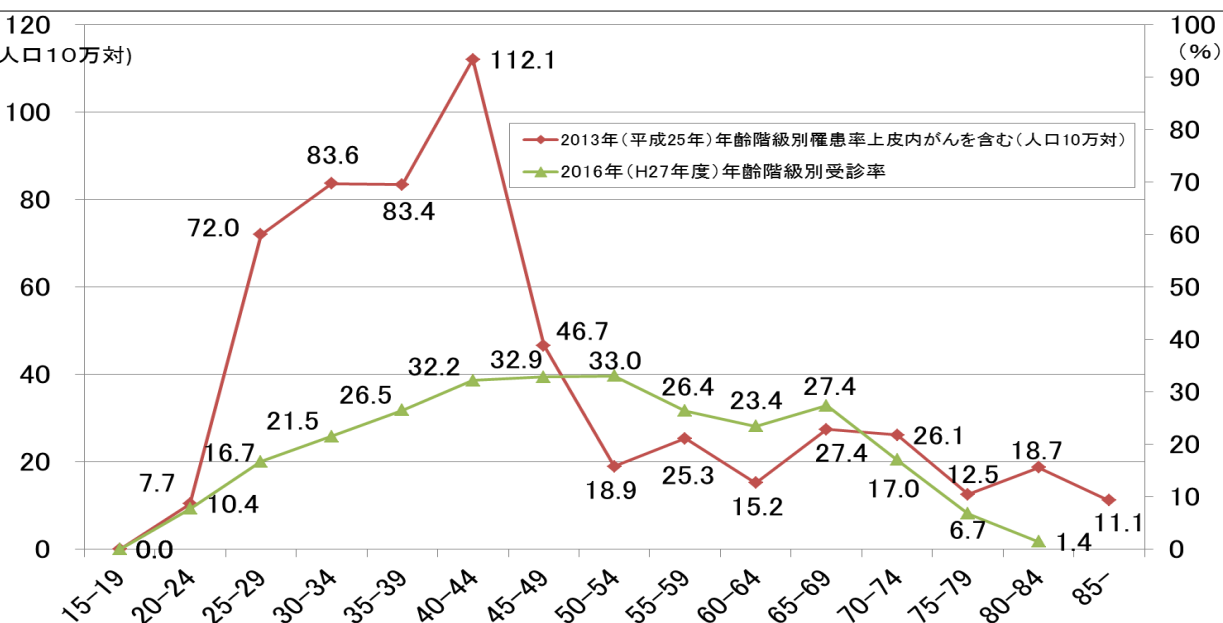
臨床進行度 子宮頸がん(2008~2010年上皮内がん含む)



20歳代の罹患は多いが受診率は低迷

子宮頸がんは妊娠・出産・子育てと多忙な20~30歳代に多いがん。しかし検診受診率は7~20%と低迷。

2013年(H25年)部位別年齢階級別罹患率(人口10万対)と受診率(H27年度)



結婚 妊娠 出産 子育て



正しい知識の提供

母親・父親予備軍

大学における子宮頸がん予防講習会
女性の体の健康相談
職域における子宮頸がん予防普及啓発

+ 子宮頸がん検診車での子宮頸がん検診の実施

受診へのきっかけづくり

大学

職域

女性スタッフによる

子宮頸がん予防講習会

会場: 大学キャンパス
年間4箇所
方法: 産婦人科医の講演
内容: がんの罹患状況、がんの予防
がん検診の効果等
対象: 対象となる大学の在学者



子宮頸がん予防普及啓発

会場: 工業団地
年間2箇所程度
方法: リーフレットの配布
内容: がんの罹患状況
がんの予防
がん検診の効果等
対象: 企業に在籍する従業員

女性の体の健康相談
対象: 希望者

子宮頸がん検診の実施

対象: 会場に在籍する20歳以上の女性(1会場50人程度)
方法: 会場に検診ラッピングバスを乗り入れて実施
費用: 無料



尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

～がんになっても自分らしく生きることのできる地域共生社会を実現する～

がん患者サポートセンターの運用

がん患者、家族への医療・心理・就労のワンストップ相談を医師、保健師、ピア・サポーターで実施
(1,591千円)



(新)がん治療と仕事の両立相談窓口の設置

がん患者サポートセンターにおいて社会保険労務士による面接・電話相談の窓口を設置し、就労問題などについての相談に対応
(173千円)



(新)がんリハビリテーション研修の検討

がん治療に伴う身体の機能低下の回復に有効なリハビリテーションの提供に向け、県内医療機関の実態調査と今後の研修内容の検討等を行う
(545千円)

新

がん患者等支援事業

ピアサポーター養成研修の開催

がん患者やその家族による仲間(ピア)として相談支援を行うピア・サポーターを養成するための研修会を開催
(390千円)



(新)ピアサポーターフォローアップ研修の開催

ピア・サポーターの資質向上を図るため、がん治療の最新の動向や効果的な相談対応等に係る研修会を開催
(257千円)